

立命館大学で初の出前講座開催

座学、工場見学、組立体験を3日間で 関西鉄筋組合

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）は6月3日と10日、17日の三日間にわたり、立命館大学の理工学部建築都市デザイン学科の3年生約40名を対象に出前講座を行いました。この出前講座は材料、施工、構造を一体的に学び、実務での関係性を理解してもらうことを目的に、同大学では初めての開催となるものです。

このうち、第一回目となる3日は同大学のびわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）で座学が行われ、岩田理事長と関西圧接業協同組合の濱野功理事長らが講師となり業界の現状や職人の誇りなどについて講義しました。座学は5時限（16:20～17:50）の授業の中で行われました。講義では最初に、同大学の持田泰秀・理工学部建築都市デザイン学科教授が出前講座の趣旨や鉄筋コンクリート構造の概要などを説明し、「この講座を通じて鉄筋工事の重要性を理解するとともに、職人離れが進む建設業界の現状や課題などについて学んでほしい」と述べました。

この後、まず岩田理事長が「建設業界では今、何が起きているか？～下請から見た建設業界の昔と今～」をテーマに、受発注システムや元下関係の変化、処遇・労働環境などの違いについて紹介するとともに、「ものづくりの原点は人づくりでもある」と強調し、誇りを持って仕事をする職人の熱い思いを伝えました。引き続き、圧接組合の濱野理事長と浜崎仁副理事長がガス圧接工事の原理や仕組み、鉄筋継手工法の種類や違いなどを具体的に説明しました。

同大学での出前講座はこの後、10日に共英製鋼(株)枚方事業所と正栄工業(株)の協力を得て鉄筋製造工場、加工工場の見学と併せ、圧接作業の実演見学が行われました。また、17日はびわこ・くさつキャンパスで2級検定モデルの組立作業を体験しました。

※ 17日の組立作業に参加協力、応援をいただいた組合員の皆様は次の通りです。

- ・ 岩田理事長
- ・ 辻本浩二氏（辻本鉄筋工業）
- ・ 森山直樹氏（城東鉄筋）
- ・ 又野吉史氏（又野鋼業）
- ・ 鎌田敦士氏（鎌田鉄筋工業）
- ・ 田中毅氏（関西スチールフォーム）
- ・ 恵谷信氏（恵谷鉄筋）
- ・ 今村俊郎氏（吉岡工業）

